



天逝した美女の最後の写真を撮った青年イザクに信じがたいことが起きる。不可思議な微笑みが引き寄せたふたつの魂——。

世にも美しい愛の幻想譚。

アンジェリカの微笑み



 第63回カンヌ国際映画祭 ある視点部門オープニング作品



世界中の映画作家から尊敬を集める、
世紀の巨匠オリヴェイラ監督が
101歳のときに残した幻の傑作、ついに公開へ。



極上ヴィンテージワインの馥郁たる香りに陶然となる。

現役最高齢監督として国際的に知られ、2015年4月2日に、惜しまれつつも106歳で永眠した世界の巨匠マノエル・ド・オリヴェイラ。そのオリヴェイラ監督が101歳の時に撮り上げ、第63回カンヌ国際映画祭〈ある視点〉部門のオープニングを飾った『アンジェリカの微笑み』が、絶余曲折を経て、ついに日本公開される。本作はオリヴェイラ監督が1952年に脚本を執筆したものの、映画化されないまま半世紀以上の歳月をかけて熟成され、その後監督自らの手で現代の物語として完成させた。まさに、極上ヴィンテージワインのような傑作である。



愛の波動が震える。あまりに美しく官能的なその微笑みは幻か現実か…



ポルトガルはドウロ河流域の小さな町。カメラが趣味の青年イザクは、ある夜、若くして亡くなった娘アンジェリカの写真撮影を依頼され、町でも有数の富豪の邸宅を訪れる。白い死に装束に身を包み、花束を手に抱えて横たわる娘にカメラを向けると、その美しい娘は、突然瞼を開きイザクに微笑みかける。その瞬間、イザクは雷に打たれたように恋に落ちてしまうのだった。

絶世の美女アンジェリカの神秘に満ちた微笑みに心奪われ、昼夜想いを馳せるイザク。その想いにこたえるように出没するアンジェリカの幻影。一瞬にして重なり応答する愛の波動が、この世とあの世の境界を飛び越え、ふたつの魂を引き寄せる。魔術的な映画作家であるオリヴェイラ監督だからこそ創り得た、ミステリアスで驚くほど瑞々しい、時空を超えた愛の幻想譚。心を射抜かれるその微笑みは誰もが魅了されずにはいられない。

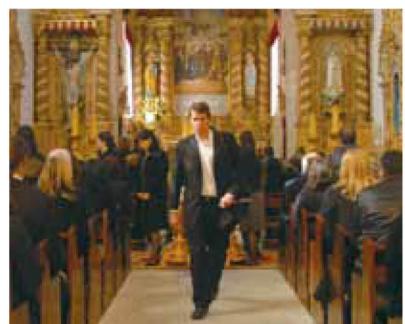


自由自在な映画を生み出してきたオリヴェイラ監督を支える俳優たちと音楽。

青年イザクを演じるのは、『ブロンド少女は過激に美しい』(09)など、オリヴェイラ映画の常連俳優であり、監督の実の孫でもあるリカルド・トレバ。一方、『シルビアのいる街』(07)などの人気女優ピラール・ロペス・デ・アジャラがアンジェリカに扮し、加えて、レオノール・シルヴェイラ、ルイス・ミゲル・シントラ、イザベル・ルートほか、オリヴェイラ一家とも呼べるベテラン俳優たちが脇を固め、日常の何気ない行為や会話に、そこはかとないユーモアや年輪を感じさせるエスプリを散りばめた。



流麗なショパンのピアノ曲は、監督のお気に入りのピアニストで、日本でも人気の高いマリア・ジョアン・ピリスが奏で、幻想的な世界を際立たせる。



舞台となるドウロ河は、オリヴェイラ監督が生まれ育った、ポルトガル第2の都市ポルトを流れる大河。この一帯の歴史地区は世界遺産に登録されている。



マノエル・ド・オリヴェイラ監督作品 アンジェリカの微笑み

監督・脚本：マノエル・ド・オリヴェイラ 出演：リカルド・トレバ、ピラール・ロペス・デ・アジャラ、レオノール・シルヴェイラ、ルイス・ミゲル・シントラ、アナ・マリア・マガリャンエス、イザベル・ルート 2010 | ポルトガル・スペイン・フランス・ブラジル | 97分 | カラー
原題：The Strange Case of Angelica 日本語字幕：齋藤敦子 配給：クレストインターナショナル crest-inter.co.jp/angelica
©Filmes Do Tejo II, Eddie Saeta S.A., Les Films De l'Après-Midi,Mostra Internacional de Cinema 2010